

舌痛症や口腔顔面
痛には線維筋痛症
の治療が有効

戸田克広

舌痛症や口腔顔面痛には線維筋痛症の治療が有効

〒738-0060

広島県廿日市市陽光台5丁目12番

廿日市記念病院リハビリテーション科

戸田克広

キーワード：舌痛症、口腔顔面痛、線維筋痛症、慢性広範痛症

舌痛症

舌痛症は舌に器質的な異常がないにもかかわらず舌に痛みが生じる疾患である。英語表記にはglossodyniaとburning mouth syndrome (BMS) の二通りがある。Glossは舌を意味するため、glossodyniaは文字通り舌に痛みが起こった状態である。一方、BMSにはmouthという用語があるため、舌よりもやや広い範囲である口に痛みが起こった状態である。舌のみならず器質的な異常がないにもかかわらず口腔に痛みが生じる場合も舌痛症と表記することがある。一方、口腔顔面痛という病態があり、以前は非定型顔面痛と表記されることが多かった。口腔顔面痛あるいは非定型顔面痛は器質的な異常がないにもかかわらず口腔や顔面に痛みがある状態であり、BMSと同一の疾患[1]あるいはBMSを含む疾患[2]かもしれないと報告されている。診断基準により舌痛症の有病率には大きな差があり、0.6%から15%と報告されている[3]。医療機関を受診しても異常なしと診断され、治療はないと言いつ渡されることもある。

線維筋痛症と慢性広範痛症

一方、線維筋痛症 (fibromyalgia: FM) と言われる慢性痛がある。有病率は約2%[4]であるが、その不全型あるいは前段階の慢性広範痛症 (chronic widespread pain: CWP) の有病率はFMを含めると約10%と報告されている[5]。日本以外の先進国や英語で医学教育が行われている非先進国の一部では常識であるFMがやっと日本に輸入されつつある状態である。未だにCWPはほとんど知られておらず、CWPには正式の日本語訳はない。筆者が慢性広範痛症と個人的に翻訳して使用

している状態である。診断基準上CWPの中で18か所の圧痛点のうちで11か所に圧痛があればFMと診断される[6] [7]。FMやCWPの業界では舌痛症はFMやCWPの一症状と見なす考え方がある[8]。FMやCWPの原因は不明であるが、脳機能の何らかの障害であることが定説になっている[9]。

舌痛症には線維筋痛症の治療が有効

筆者はFMやCWPを専門にしている。舌痛症単独や口腔顔面痛単独の患者を診察したことはないが、舌痛症や口腔顔面痛を合併したFMやCWP患者を数多く治療している。世界ではCWPに対してはFMと同じ治療が行われており[10]、筆者もそうしている。慢性腰痛症など身体の一部の痛みからCWPを経由してFMになると報告されている[11] [12] [13]。FMと同じ治療をCWPやCEPの不完全型の慢性局所痛症に行えばFM以上の治療成績を得ることができる[14]。筆者の経験では、FMの治療により全身の痛みが軽減すると、通常は舌痛症や口腔顔面痛も同様に軽減する。舌痛症や口腔顔面痛の性状はFMの痛みそのものである。

これらのことを総合すると、舌痛症や口腔顔面痛にFMの治療を行えばFM以上の治療成績を得ることができるであろうと推測できる。実際、舌痛症にはガバペンチン[15]や三環系抗うつ薬[16]が有効であることが報告されている。BMSの別名である非定型口腔痛には抗うつ薬が有効と報告されている[17]。抗うつ薬やガバペンチンはFMに有効な薬物である。

FMに有効な治療は散歩などの有酸素運動、受動喫煙の防止を含めた禁煙、認知行動療法、薬物治療などである[18]。FMに有効な薬物はノイロトロピン、デキストロメトルフアン、ノルトリプチリン、アミトリプチリン、ガバペンチン、ミルナシプランなどである[18]。逆に舌痛症に有効と報告されているラフチジン[19]をFMやCWPに使用すると約3割の患者に鎮痛効果を発揮した。舌痛症や口腔顔面痛の全例にFMの治療が有効かどうかはわからないが、少なくとも「検査で異常がないので、治療法はない。」と言わなくてもすむ。ただし、ノルトリプチリンやアミトリプチリンなどの三環系抗うつ薬は喉が乾く副作用を引き起こすことがある。その場合には舌痛症が悪化する場合もあるので注意が必要である。

舌痛症は心因性疼痛や身体表現性障害ではない

舌痛症や口腔顔面痛を心因性疼痛と見なす考え方がある。心因性疼痛は痛みの

原因の観点で定義されたはずの痛みである。しかし、他覚的所見が見つからないという症状の観点で心因性疼痛と診断されることが多く、実におかしなことである[20]。原因の観点で定義したのであれば原因の観点で診断すべきである。残念ながら、現時点の医学レベルでは原因の観点で定義された心因性疼痛を原因の観点では診断することは不可能である。心因性疼痛と診断されてしまうとFMの治療を受ける機会を失ってしまう。疾病分類は患者の利益のために行われるべきであり、医学理論の是非を確かめるために行われるべきではない。治療成績がよい疾病分類が用いられるべきである。舌痛症や口腔顔面痛を心因性疼痛と見なさず、FMやCWPの一症状と見なしてFMの治療を行うことが治療成績を向上させると考えている。身体表現性障害（身体化障害、疼痛性障害）に関しても同様である。

引用文献

- 1) Woda A, et al: A unified concept of idiopathic orofacial pain: pathophysiologic features. *J Orofac Pain* 14: 196-212, 2000
- 2) Gerschman JA: Chronicity of orofacial pain. *Ann R Australas Coll Dent Surg* 15: 199-202, 2000
- 3) Zakrzewska J, et al: Facial pain. *In : Epidemiology of pain*, ed by Von Korff M. IASP Press, Seattle, 1999, pp 171-202
- 4) Toda K: The prevalence of fibromyalgia in Japanese workers. *Scand J Rheumatol* 36: 140-144, 2007
- 5) McBeth J, Jones K: Epidemiology of chronic musculoskeletal pain. *Best Pract Res Clin Rheumatol* 21: 403-425, 2007
- 6) Wolfe F, et al: The American College of Rheumatology 1990 Criteria for the Classification of Fibromyalgia. Report of the Multicenter Criteria Committee. *Arthritis Rheum* 33: 160-172, 1990
- 7) 戸田克広: 線維筋痛症の診断基準. *日本医事新報* 4443: 49-52, 2009
- 8) Clauw DJ, et al: Chronic widespread pain and fibromyalgia: what we know, and what we need to know. *Best Pract Res Clin Rheumatol* 17: 685-701, 2003
- 9) Kasper S: The psychiatrist confronted with a fibromyalgia patient. *Hum Psychopharmacol* 24 Suppl 1: S25-30, 2009

- 10) Toda K: Treatment of Chronic Widespread Pain is Similar to Treatment of Fibromyalgia Syndrome throughout the World. *J Musculoskel P* 18: 317-318, 2009
- 11) Lapossy E, et al: The frequency of transition of chronic low back pain to fibromyalgia. *Scand J Rheumatol* 24: 29-33, 1995
- 12) Bergman S, et al: Chronic widespread pain: a three year followup of pain distribution and risk factors. *J Rheumatol* 29: 818-825, 2002
- 13) Nicholl BI, et al: Premorbid psychosocial factors are associated with poor health-related quality of life in subjects with new onset of chronic widespread pain - results from the EPIFUND study. *Pain* 141: 119-126, 2009
- 14) 戸田克広: 線維筋痛症と chronic widespread pain (CWP) ・ 不全型 CWPの治療成績の比較. *臨整外* 44: 1203-1207, 2009
- 15) White TL, et al: Effectiveness of gabapentin for treatment of burning mouth syndrome. *Arch Otolaryngol Head Neck Surg* 130: 786-788, 2004
- 16) Pinto A, et al: Burning mouth syndrome. A retrospective analysis of clinical characteristics and treatment outcomes. *N Y State Dent J* 69: 18-24, 2003
- 17) Melis M, et al: Diagnosis and treatment of atypical odontalgia: a review of the literature and two case reports. *J Contemp Dent Pract* 8: 81-89, 2007
- 18) 戸田克広: 線維筋痛症と chronic widespread pain. *日本医事新報* 4399: 67-70, 2008
- 19) 立花哲也・他: 舌痛症とカプサイシン感受性知覚神経との関係. *口科誌* 55: 167-178, 2006
- 20) Toda K: The terms neurogenic pain and psychogenic pain complicate clinical practice. *Clinical Journal of Pain* 23: 380-381, 2007

著者紹介

著者紹介

戸田克広（とだかつひろ）

1985年新潟大学医学部医学科卒業。元整形外科医。2001年から2004年までアメリカ国立衛生研究所（National Institutes of Health: NIH）に勤務した際、線維筋痛症に出会う。帰国後、線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や原因不明の痛みの治療を専門にしている。2007年から廿日市記念病院リハビリテーション科（自称慢性痛科）勤務。『線維筋痛症がわかる本』（主婦の友社）を2010年に出版。電子書籍『抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、抗不安薬の罣、日本医学の闇—』<http://p.booklog.jp/book/62140>を2012年に出版。ブログにて線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や痛みの情報を発信している。実名でツイッターをしている。

ツイッター：@KatsuhikoTodaMD

実名でツイッターをしています。キーワードに「線維筋痛症」と入れればすぐに私のつぶやきが出てきます。痛みや抗不安薬に関する問題であれば遠慮なく質問して下さい。私ができる範囲でお答えいたします。

電子書籍：抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、精神安定剤の罣、日本医学の闇—<http://p.booklog.jp/book/62140>

日本医学の悪しき習慣である抗不安薬の使用方法に対する内部告発の書籍です。276の引用文献をつけています。2012年の時点では抗不安薬による常用量依存に関して最も詳しい日本語医学書です。医学書ですが、一般の方が理解できる内容になっています。

・戸田克広：「正しい線維筋痛症の知識」の普及を目指して!—まず知ろう診療のポイント—. CareNet 2011

<http://www.carenet.com/conference/qa/autoimmune/mt110927/index.html>

薬の優先順位など、私が行っている線維筋痛症の最新の治療方法を記載してい

ます。

・戸田克広: 線維筋痛症の基本. CareNet 2012

<http://www.carenet.com/special/1208/contribution/index.html>

さらに最新の情報を記載しています。

ブログ：[腰痛、肩こりから慢性広範痛症、線維筋痛症へー中枢性過敏症候群ー戸田克広](http://fibro.exblog.jp/) <http://fibro.exblog.jp/>

線維筋痛症を中心にした中枢性過敏症候群や抗不安薬による常用量依存などに関する最新の英語論文の翻訳や、痛みに関する私の意見を記載しています。

線維筋痛症に関する情報

戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.

医学書ではない一般書ですが、引用文献を400以上つけており、医師が読むに耐える一般書です。

電子書籍

通常の書籍のみならず電子書籍もあります。

電子書籍（アップル版、アンドロイド版、パソコン版）

<http://bukure.shufunotomo.co.jp/digital/?p=10451>

通常の書籍、電子書籍（kindle版）

http://www.amazon.co.jp/%E7%B7%9A%E7%B6%AD%E7%AD%8B%E7%97%9B%E7%97%87%E3%81%8C%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8B%E6%9C%AC-ebook/dp/B0095BMLE8/ref=tmm_kin_title_0

電子書籍（XPDF形式）

<http://books.livedoor.com/item/4801844>

舌痛症や口腔顔面痛には線維筋痛症の治療が有効

著者：戸田克広

2013年1月30日 第1版第1刷発行

<http://p.booklog.jp/book/63752>

著者：戸田克広

発行者：吉田健吾

発行所：株式会社ブックログ

〒150-8512東京都渋谷区桜丘町26-1 セルリアンタワー

<http://booklog.co.jp>

舌痛症や口腔顔面痛には線維筋痛症の治療が有効

著者：戸田克広

2013年1月30日 第1版第1刷発行

<http://p.booklog.jp/book/65231>

著者：戸田克広

発行者：吉田健吾

発行所：株式会社ブックログ

〒150-8512東京都渋谷区桜丘町26-1 セルリアンタワー

<http://booklog.co.jp>

舌痛症や口腔顔面痛には線維筋痛症の治療が有効

<http://p.booklog.jp/book/65231>

著者：戸田克広

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/katsuhitodamd/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/65231>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/65231>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ